

2018年9月13日

ウェザーニューズとパナソニック、新型エアコンを発表 ～気象情報と連携した世界初のAI先読み空気清浄を搭載～

株式会社ウェザーニューズ（本社：千葉市美浜区、代表取締役社長：草開 千仁）は、パナソニック株式会社（本社：大阪府門真市、代表取締役社長：津賀 一宏）とともに、気象情報と連携する世界初（※1）のルームエアコン「エオリア」WXシリーズ/Xシリーズの発売を発表しました。本製品は、ウェザーニューズが提供する気温や湿度、PM2.5や花粉の拡散予測などをもとに、部屋の空気の汚れを先読みして自動で空気清浄運転を行う「AI先読み空気清浄」と、外出時にエアコンをつけっぱなしにした場合と切った場合で、どちらが電気代を節約できるかをシミュレーションする「つけっぱなし判定」機能を新たに搭載しました。ウェザーニューズは、パナソニック株式会社と協力して気象予測を取り入れた家電を開発することで、健康で快適な暮らしを支援していきます。

◆ PM2.5や花粉を予測して自動で空気清浄運転を開始する「AI先読み空気清浄」

パナソニックが部屋の汚れを調査したところ、室内で発生するハウスダストなどの汚れ以上に、室外からのPM2.5や花粉の侵入によって汚染されており、屋外での飛散量と連動して部屋の空気も汚れることがわかりました。本製品は、ウェザーニューズが提供する市区町村ごとの屋外のPM2.5や花粉の飛散予測のデータを取得し、「エオリア AI」が学習した住宅環境をもとに、その日の部屋の空気が汚れるタイミングを先読みして、部屋が汚れる前に空気清浄運転を行います。スイッチを入れなくてもPM2.5や花粉が大量飛散する前に自動で稼働するため、窓を開けるよりも空気を清浄に保つことができます。また、「エオリア AI」の住宅環境の判定は学習により日々補正され、使うほどに精度が向上します。

◆ エアコンの電気代を賢く節約できる「つけっぱなし判定」

パナソニックが行ったエアコンに関する調査から、調査対象者の4人に1人が外出時にエアコンをつけっぱなしにしており、その半数以上が、つけっぱなしの方が省エネ・電気代が安いと思っているということがわかりました（※2）。エアコンは運転立ち上げ時に電力を使うため、こまめに切ることで電気代が上がり、結果的につけっぱなしの方が電気代が安い場合もありますが、実際には外気温や住宅環境、エアコンの能力値や設定状況などの条件が異なるため、どちらがお得かについては一概に言えません。

そこで、本製品は「つけっぱなし」と「切る」場合の適温になるまでの“電気代”と“帰宅時の室温”を比較できる「つけっぱなし判定」を搭載しました。ウェザーニューズの気温の予測データと、設定された外出時間、学習した部屋の住宅環境を掛け合わせて分析を行うことで、帰宅後に適温になるまでにかかる電気代と帰宅時の室温を予測します。「つけっぱなし判定」をご活用いただくことで、電気代を賢く節約いただけます。

※1: 家庭用エアコンにおいて、気象データを取得し、住宅環境に合わせて自動で空気清浄する技術。2018年9月13日現在。

※2: パナソニック調べ「エアコンに関する調査」 調査期間：2018年6月8～13日、対象者：20歳以上の男女2,060人